

μ ST-SH2

vi エディタの使用解説

2.1 版 2023 年 10 月 02 日

1. 概要

1.1 概要

本アプリケーションノートは μ ST-SH2 用 Linux 上で動作する vi エディタの用法について説明します。

1.2 vi エディタについて

vi エディタとは Bill Joy 氏が、UCB 在学時代に作成したスクリーンエディタです。

vi エディタは UNIX 系 OS の標準エディタとして採用されており、RedHat・Fedora といった標準的な Linux ディストリビューションでも採用されています。

vi の特長として、文字入力を行う入力モードと、カーソル移動や検索などのコマンドを実行するコマンドモードという 2 つのモードが存在することがあげられます。

μ ST-SH2 用 Linux 上で動作する vi は busybox※1 の一部として提供されており、標準的な vi の機能を完全に補完しておりません。

※1 busybox とは Erik Andersen 氏によって開発された、UNIX ユーティリティプログラムです。busybox 複数の実行ファイルを単一のファイルに統合したプログラムで、vi のほかに sh や cat など多くの基本コマンドを組み込むことができます。

2. vi の使用法

2.1 起動

vi エディタの起動は Linux のコマンドプロンプト上から **vi ファイル名** を実行してください。

```
# vi ファイル名
```

2.2 入力モードへの移行

vi を起動するとコマンドモードではじまります。

コマンドモードから入力モードに移行するには『**a**』または『**i**』を入力します。

入力モードからコマンドモードに移行するには『**Esc**』を押してください。

2.3 コマンドモード

ここではコマンドモードにおける一般的なキー操作の一覧を示します。

※ 大文字と小文字の違いにより実行されるコマンドが異なります。

カーソル移動	
上	k
下	j
右	l
左	h
行頭	^
行末	\$
指定行番号	数 G

文字挿入	
カーソル後挿入	a
カーソル前挿入	i
行末追加	A
行頭挿入	I

削除	
カーソル上の 1 文字	x
カーソル前の 1 文字	X
行削除	dd

2.3 保存・終了

vi で作成したテキストファイルを保存するにはコマンドモード時『:w』と入力し、リターンを押します。
また、vi を終了するにはコマンドモード時に『:q』と入力し、リターンを押します。

vi ではファイルへの書き込みや終了といった処理は行編集コマンドといい、『:]』の後にコマンドを入力します。
一般的な行編集コマンドの一覧を示します。

行編集コマンド	
終了	:q
強制終了	:q!
ファイルへの書き込み	:w
ファイルに保存後終了	:wq

ご注意

- ・本文書の著作権は、株式会社アルファプロジェクトが保有します。
- ・本文書の内容を無断で転載することは、一切禁止します。
- ・本文書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- ・本文書に記載されている内容についての質問等のサポートは、一切受け付けておりませんのでご了承ください。
- ・本文書の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点、誤りなどお気づきの点がありましたら弊社までご連絡下さい。
- ・本文書の内容に基づきアプリケーションを運用した結果、万一損害が発生しても、弊社では一切責任を負いませんのでご了承下さい。

・Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

・その他の会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。



株式会社アルファプロジェクト
〒431-3114
静岡県浜松市中央区積志町 834
<https://www.apnet.co.jp>
E-Mail: query@apnet.co.jp